

川上村議会議員視察研修会報告

日 時：令和6年1月16日から1月18日

場 所：全国町村会館ほか

参加者：9名

1日目：1月16日（火） 全国町村会館 会議室

【研修会】

演題「住民から期待される議会になろう」

講師：早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村 健 氏

これからの地方議会のあり方をテーマに「住民から期待される議会になろう」という演題で講演をいただいた。

住民から期待される議会になるためにどのような方法で何を実践していかなければならないか、全国の取り組み事例を交えた講演で、今後の議会活動の参考となる講演であった。

2日目：1月17日（水） つくば市 防災科学技術研究所

【視察・研修会】

【視察】：防災科学技術研究所内の各施設を視察

この研究所では、全国の災害データの分析、災害の予測などの研究が行われており、地震や豪雨を再現する大型実験施設も整備されている。

ここでの研究成果が日本の防災や災害時の対応に生かされている。

【研修会】：防災科学技術研究所

総合防災情報センター長 臼田 裕一郎 博士

総合防災情報センターでは、災害時の情報共有の研究開発や社会展開が進められている。特に災害時の対応に焦点を当て、必要な情報を各所から収集し、利用しやすい形式に変換して配信するシステム「SIP4D：基盤的防災情報流通ネットワーク」の研究・運用がされている。

この日は、1月1日に発生した能登半島地震の被災地に入り、このシステムを使用して災害支援を行っている臼田博士に講義をいただいた。

災害発生後は、自治体、消防、警察、自衛隊など各組織がそれぞれ災害対応にあたり情報の提供をすることとなるが、この情報を収集、一元

化し各組織で共有可能とするものが「SIP4D」システムであり、このシステムの運用により、より迅速で適切な災害対応、被災者支援が可能となることであった。

被災地の状況は、住宅の一階部分が崩壊し2階部分だけが残っている住宅が散見され、崩壊した多くの住宅は耐震化されていない古い建物であった。崩壊した住宅に隣接する新しい住宅は、ほとんど被害を受けていない状況からも住宅の耐震化が重要であることであった。

また、防災対策においては、地区ごとに整備する地区別防災マップの整備が重要で、その地区に住む住民が主体となって検討、作成し、日頃からの備えや緊急時の対応を地区住民全体で共有することが、災害時の被害を最小限にするために非常に有効であることであった。

災害は地域によって様々な状況が想定されるが、事前の防災対策や災害発生時における情報の収集と適切な共有ができる環境づくりが非常に重要であると改めて認識した。

3日目：1月18日（木） 国土地理院 地図と測量の科学館

【視察】

地図や測量に関する歴史、原理や仕組みなどがわかりやすく展示されていた。現代では様々な地図が作成されており、それを利用したシステムも運用されている。

「地理院地図 Vector」では、表示、非表示や色の調整などが細かく設定でき、個々の目的に合わせたウェブ地図がデザインできるようになっている。

また、ハザードマップポータルサイトのシステムでは、各場所の災害リスク情報のほか土地の特徴、成り立ちなども確認できるようになっている。

標高や地形、土地の特徴や成り立ちは災害と密接にかかわることから、事前の防災対策には、自己の居住地域がどのようなになっているかを知ることが重要であると認識した。

視察研修状況

